

チャーلز・A・ビーアード

開米潤二監訳 阿部直哉・丸茂恭子訳

日米開戦
70年記念

ルーズベルトの責任

「日米戦争はなぜ始まったか」上・下

一九四一年十二月八日、日本は遂に対米戦争に追い込まれる。ルーズベルトが、非戦を唱えながら日本を対米開戦に追い込む過程を膨大な資料を元に容赦なく暴き、48年に発刊されるも直ちに「禁書」扱いされ、占領下日本でも翻訳されることのなかった政治・外交史の大家の幻の遺著、遂に全訳刊行！

幻の名著、遂に完訳発刊。

2011年12月刊上巻配本(下は1月予定)

A5上製 予各432頁 定価=予本体4,200円+税

上ISBN978-4-89434-835-6

下ISBN978-4-89434-837-0

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 523

電話 03-5272-0301 / F A X 03-5272-0450

E-mail info@fujiiwawra-shoten.co.jp

藤原書店

本書について

一九四一年十二月七日（日本時間八日）、日本海軍によるハワイ真珠湾での奇襲攻撃で火蓋が切られた日米開戦——このとき、アメリカ合衆国にとっての大惨事を冷徹な眼差しで見据えていた一人の学者がいた。チャールズ・A・ビーアド博士である。博士は戦争が偶発的に発生したのではなく、その勃発を一〇〇年以上にわたり米国が実践してきたアジア極東外交の結末と捉え、それが米国にとり新たな危険な時代の幕開けであると見做したのだった。

第一次世界大戦後、次々と開示された膨大な外交公文書を綿密に読み解く作業の中で、将来における米国のあるべき姿を建国以来の歴史の文脈と、その理念から明白にしようとした博士は、真珠湾攻撃を単に歴史の重大事件として記録するのではなく、フランクリン・ルーズベルト大統領が参戦を決定するまでの過程を新しい視点で炙り出した。大統領陰謀説の嚆矢ともなった本書は、ビーアド博士最晩年の力作であり、絶筆でもある。

目次

日本の読者へ デートレフ・F・ヴァクト
巻頭言

第I部 外観

- 第1章 1941年に外交を遂行する上での道義上の公約
- 第2章 同盟国に対する武器貸与法の支援の描出
- 第3章 外観としてのパトロール
- 第4章 大西洋会談——その外観
- 第5章 大西洋で「攻撃を受けた場合」
- 第6章 「いかなる宣戦布告」も要請せず
- 第7章 日本との関係の外観
- 第8章 奇襲攻撃——公式の説明

第II部 実態を明らかにする

- 第9章 事実発覚の始まり
- 第10章 連邦議会と報道に正当性を問われる公式の説
*以上上巻
- 第11章 陸軍と海軍の両委員会に損なわれた公式の説
- 第12章 連邦議会委員会が真珠湾事件に関する記録を調査し報告

第III部 真珠湾資料に記された実態

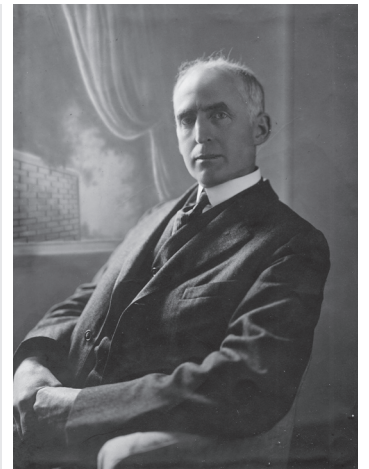
- 第13章 公式の説としての罪の所在をつくり出す
- 第14章 極秘の参戦決定と戦争計画
- 第15章 大西洋会議の現実
- 第16章 日本との関係における「込み入った戦略」
- 第17章 日本が最初に発砲するよう導く

第IV部 エピローグ

- 第18章 結果で評価される解釈
年表／人名索引

チャールズ・A・ビーアド

1874年米国インディアナ州生まれ。オックスフォード大学留学、コロンビア大学などで歴史学、政治学を修め、1915年に同大学教授に就任。米国の第一次世界大戦への参戦で、大学総長の偏狭な米国主義に対し、思想信条にそぐわない三人の教授が解雇されたのを機に、正義感の人、ビーアドも昂然と大学を去る。1917年、ニューヨーク市政調査会理事に就任。22年には当時の東京市長、後藤新平の招請で来日。その調査・研究成果の集大成が『東京市政論』で、日本の市政研究の先駆けともなった。23年関東大震災直後に再来日。東京の復興に関する意見書を提出するなど「帝都復興の恩人」として活躍。後に、焦土と化した戦後の日本の都市計画にも示唆を与えた。米国政治学会会長、米国歴史協会会長を歴任。48年、コネチカット州で死去。享年74歳。邦訳された著書に The Republic, 1943 (松本重治訳『アメリカ共和国』), The American Spirit, 1942 (高木八尺・松本重治訳『アメリカ精神の歴史』), ビーアド夫人との共著 A Basic History of the United States, 1944 (松本重治訳『アメリカ合衆国史』) などがある。



注文書 (FAX 03-5272-0450 藤原書店)

ご注文は、藤原書店営業部まで直接、またはお近くの御便利な小売書店でお申込み下さい

■注文内容 『ルーズベルトの責任』 ㊤ () 冊 / ㊦ () 冊

■お名前

■ご住所 (郵便番号)

■お電話番号

お申込み書店 (帳合・番線)